洗脳からの脱却

岐阜大学附属小中学校 9年
藤代 こころ（ふじしろ こころ）

ランドセルを選ぶとき、沢山の色があるランドセルにワクワクしました。好きな色で好きな形を見つけ、何度も何度もランドセルを持ち直しました。自分の好きが詰まったランドセルが届いたとき、より一層学校へ行くのが楽しみになりました。皆さんが小学校に入学するとき、ランドセルの色は何色にしましたか？男の子は黒、女の子は赤ということを考えて選びましたか？また、中学生になるとき、制服はどのようなものにするか、すぐに決めましたか？スラックス、スカートどちらにしようかな？ネクタイにするか、リボンにするか、どちらにするか、すぐに決められましたか？私はどちらの制服もすごく素敵でどちらとも着たい！と思いました。

私の通う附属学校ではランドセルの色や形が自由であり、男の子がスカートを履き、リボンをつけ、女の子がスラックスを履き、ネクタイをつけることが認められています。目的としては、やはりジェンダー平等という点が大きくあると思います。このような社会的問題であるジェンダー平等には様々な意見があると思いますが皆さんはどう思いますか？

「男の子なんだからぬいぐるみそんなに沢山いらなくない？」「男の子なんだから勉強しなくてもスポーツしてればいいんじゃない？」「女の子なんだから料理くらい覚えなさい。」「女の子なんだから肌は綺麗にしておきなさい。」脱いだ服をそのままにしているとき、「女の子なんだからちゃんと洗濯カゴに入れなさい。」でも、弟は何も言われない。同じ家族の中で言われることになぜ違いがあるのか、違和感を覚えました。

私は小さいころから服はフリフリ、見るものはプリンセス。弟の小さいころはTシャツにズボン。右手にボール、左手に剣。生まれながらに違いがありますよね。極端な話、山の中や自然の中で育てられていたら、同じように育っていたでしょうか？生まれながらに私たちを縛っているものがそばにあると思いませんか？小さいころは言われた通りの服、つけられたテレビ、与えられたおもちゃ。それで生活していました。でも、成長するにつれて自分の意志が強くなり、好き嫌いができます。それを相手に伝えることで、「あの子変わってるね。」「変なのー。」と周りからの見え方がどうしても気になってしまいます。

それでも私は、自分の着たいものは自分で選んで決めたい。私は附属学校にスラックスで通っています。周りのことが全く気にならない訳ではありません。ですが、やはり自分の好きが詰まったものを身につけて学校に通うと、より一層楽しさを感じます。そして、自信を持てます。私はスラックスでの通学をなかまに主張して認めてほしいという思いをもったことも、表したこともありません。つまり、主張しなくてもしたいことができる。それを周りに意識されない。それが本当のジェンダーの平等ではないでしょうか？

ジェンダー平等とは壮大な問題ではありますが、身近な話から壮大になっている。男の子だから、女の子だからという聞き慣れた言葉や、与えられる物、環境が、生まれながらに私たちを洗脳し、ジェンダーという括りで私たちを縛っているのではないでしょうか？

私はそういったものに縛られて、自分のしたいことができなくなるのは嫌です。また、誰かの行動を自分の思いで縛ってしまうのも嫌です。私たちは、私たちの自由で、自分のしたいことをしたいように、決められるはずなのだから。